

クレディター・プレゼンテーション

2013年3月期第4四半期 決算説明資料

NOMURA

野村ホールディングス株式会社

2013年4月

© Nomura

本資料は、野村ホールディングス株式会社が、米国会計基準による2013年3月期第4半期の業績に関する情報の提供を目的として作成したものです。

本資料は、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。売付または買付の勧誘は、それぞれの国・地域の法令諸規則等に則って作成・配布される募集関連書類または目論見書に基づいて行われます。

本資料に掲載されている情報や意見は、信頼できると考えられる情報源より取得したものです。その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。なお、本資料で使用するデータ及び表現等の欠落、誤謬、本情報の使用により引き起こされる損害等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

本資料のいかなる部分も一切の権利は野村ホールディングス株式会社に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、当社の書面による承諾を得ずに複製または転送等を行わないようお願いいたします。

本資料は、将来の予測等に関する情報(「将来予測」)を含む場合があります。また当社の経営陣は将来予測に関する発言を行うことがあります。これらの情報は、過去の事実ではなく、あくまで将来の事象に対する当社の予測にすぎず、その多くは本質的に不確実であり、当社が管理できないものであります。実際の結果や財務状態は、これらの将来予測に示されたものとは、場合によっては著しく異なる可能性があります。したがって、将来予測は、過度に信頼すべきではなく、不確実性やリスク要因をあわせて考慮する必要がある点にご留意ください。実際の結果に影響を与える可能性がある重要なリスク要因としては、経済情勢、市場環境、政治的イベント、投資家のセンチメント、セカンダリー市場の流動性、金利の水準とボラティリティ、為替レート、有価証券の評価、競争の条件と質、取引の回数とタイミング等が含まれるほか、当社ウェブサイト(<http://www.nomura.com>)、EDINET(<http://info.edinet-fsa.go.jp/>)または米国証券取引委員会(SEC)ウェブサイト(<http://www.sec.gov>)に掲載されている有価証券報告書等、SECに提出した様式20-F年次報告書等の当社の各種開示書類にもより詳細な記載がございますので、ご参照ください。

なお、本資料の作成日以降に生じた事情により、将来予測に変更があった場合でも、当社は本資料を改訂する義務を負いかねますのでご了承ください。

本資料に含まれる連結財務情報は、監査対象外とされております。

- エグゼクティブ・サマリー
- 2013年3月期決算の概要(第4四半期、通期)
- 営業部門、アセット・マネジメント部門、ホールセール部門
- コスト削減の進捗
- 金融費用以外の費用
- バランスシート・マネジメント
 - レベル3資産、プライベートエクイティ/投資持分証券
 - 強固な財務基盤
 - 自己資本(Tier 1)、リスク調整後資産の変動
 - 流動性ポートフォリオ
 - 調達構造
- 参考資料

決算 ハイライト

2013年3月期 第4四半期

- 前四半期比、大幅な増収増益 ～ 税前利益、当期純利益¹は2006年3月期第4四半期以来の高水準
- 好調な営業部門に加え、野村不動産ホールディングス(以下「野村不動産」)株式の売り出し等による一時利益(501億円)が全社利益に貢献
 - 収益： 6,536億円 (前四半期比：68%増)
 - 税前利益： 1,697億円 (前四半期比：13.1倍)
 - 当期純利益¹： 824億円 (前四半期比：4.1倍)
 - ROE： 14.8% (前四半期：ROE3.8%)

2013年3月期 通期

- 大幅な増収増益 ～ 税前利益、当期純利益¹は2007年3月期以来の高水準
 - 収益： 1兆8,136億円 (前年比：18%増)
 - 税前利益： 2,377億円 (前年比：180%増)
 - 当期純利益¹： 1,072億円 (前年比：9.3倍)
 - ROE： 4.9% (前年：ROE0.6%)

バランスシート・マネジメント

- バランスシートの健全性
 - 流動性の高い、健全なバランスシート構造 (資産の82%は流動性の高いトレーディング関連資産)
 - 保守的なリスク・プロファイル
- 潤沢な手元流動性を保持 (流動性ポートフォリオ残高5.9兆円、総資産対比16%)
- 保守的な調達構造 (無担保調達資金の約8割が長期負債、償還年限および調達先は幅広く分散)
- 強固な財務基盤を維持
 - バーゼル3ベース²：Tier1比率11.7%、Tier1コモン比率³11.7%

(1) 当社株主に帰属する当期純利益 (2) 信用リスク・アセットの算出に用いるエクスポージャーの額は、期待エクスポージャー方式(IMM)を用いて算出

(3) Tier 1コモン比率：Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの

2013年3月期決算の概要(第4四半期、通期)

四半期

	2012年 3月期	2013年 3月期				前四 半期比	前年 同期比	2012年 3月期	2013年 3月期	前年比
	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q					
収益合計 (金融費用控除後)	499.0	369.3	401.7	389.1	653.6	+68%	+31%	1,535.9	1,813.6	+18%
営業部門	92.4	82.7	80.8	95.7	138.7	+45%	+50%	350.3	397.9	+14%
アセット・ マネジメント部門	15.7	16.4	15.4	18.8	18.3	-3%	+16%	65.8	68.9	+5%
ホールセール部門	158.4	121.9	137.1	189.0	196.9	+4%	+24%	555.9	644.9	+16%
3セグメント合計	266.5	221.0	233.3	303.4	354.0	+17%	+33%	971.9	1,111.7	+14%
その他	222.6	154.6	156.0	76.8	276.9	3.6x	+24%	560.1	664.2	+18%
投資持分証券の 評価損益 ¹	9.9	-6.3	12.4	8.9	22.8	+156%	+130%	3.8	37.7	9.9x
金融費用以外の費用	438.2	349.6	366.3	376.1	483.9	+29%	+10%	1,450.9	1,575.9	+9%
税前利益	60.8	19.7	35.4	13.0	169.7	13.1x	+179%	85.0	237.7	+180%
3セグメント合計	36.3	9.0	15.7	71.9	96.8	+35%	+167%	46.1	193.5	4.2x
その他 ²	14.6	17.0	7.3	-67.9	50.1	-	3.4x	35.1	6.6	-81%
投資持分証券の 評価損益 ¹	9.9	-6.3	12.4	8.9	22.8	+156%	+130%	3.8	37.7	9.9x
純利益 ³	22.1	1.9	2.8	20.1	82.4	4.1x	3.7x	11.6	107.2	9.3x

通期

	2012年 3月期	2013年 3月期	前年比
収益合計 (金融費用控除後)	1,535.9	1,813.6	+18%
営業部門	350.3	397.9	+14%
アセット・ マネジメント部門	65.8	68.9	+5%
ホールセール部門	555.9	644.9	+16%
3セグメント合計	971.9	1,111.7	+14%
その他	560.1	664.2	+18%
投資持分証券の 評価損益 ¹	3.8	37.7	9.9x
金融費用以外の費用	1,450.9	1,575.9	+9%
税前利益	85.0	237.7	+180%
3セグメント合計	46.1	193.5	4.2x
その他 ²	35.1	6.6	-81%
投資持分証券の 評価損益 ¹	3.8	37.7	9.9x
純利益 ³	11.6	107.2	9.3x

ハイライト

<第4四半期>

- 3セグメント合計の税前利益は968億円(前四半期比35%増)～2008年3月期第1四半期以来の高水準
- 営業部門
収益：1,387億円(前四半期比45%増)
税前利益：572億円(前四半期比182%増)
 - 株式市場の活況を背景に、エクイティ関連プロダクトが大幅に伸長
- アセット・マネジメント部門
収益：183億円(前四半期比3%減)
税前利益：39億円(前四半期比46%減)
 - 成功報酬・配当収入等があった前四半期比と同水準の収益を確保
- ホールセール部門
収益：1,969億円(前四半期比4%増)
税前利益：357億円(前四半期比20%減)
 - 収益は2010年3月期第3四半期以来の高水準～日本の収益が大幅に増加

<通期>

- 3セグメント合計の税前利益は1,935億円(前年比4.2倍)～全てのビジネスが増益
- 営業部門
 - コンサルティング営業が定着、市況好転も追い風となり、下期業績は大幅に回復
- アセット・マネジメント部門
 - 安定的に運用資産残高を拡大
- ホールセール部門
 - フィクスト・インカムが収益を牽引
 - コスト削減等による影響を吸収し、エクイティ、インベストメント・バンキング⁴共に前年並みの収益を確保
 - 収益性改善に向けた取組を継続～コスト水準を引き下げ、大幅な税前黒字を達成

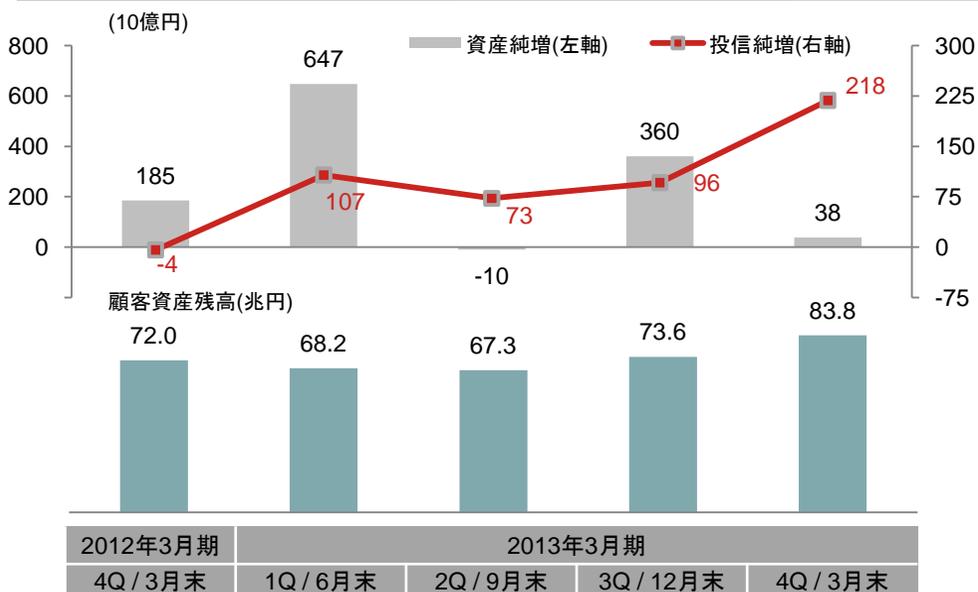
(1) 営業目的で保有する投資持分証券の評価損益 (2) その他セグメントの税前利益は501億円: (i) 野村不動産の株式売り出しによる譲渡益:116億円、残る保有持分の評価益:385億円 (ii) 子会社損益、関連会社損益の持分額、3セグメントに属さないビジネスからの利益貢献:約450億円 (iii) 自社およびカウンター・パーティのクレジット・スプレッドの変化に起因する損失:348億円

(3) 当社株主に帰属する当期純利益 (4) インベストメント・バンキングその他を除く収益

収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)	四半期							通期		
	2012年 3月期	2013年3月期				前四 半期比	前年 同期比	2012年 3月期	2013年 3月期	前年比
		4Q	1Q	2Q	3Q					
収益合計 (金融費用控除後)	92.4	82.7	80.8	95.7	138.7	+45%	+50%	350.3	397.9	+14%
金融費用以外の費用	72.1	70.5	69.8	75.4	81.5	+8%	+13%	287.1	297.3	+4%
税前利益	20.3	12.2	11.0	20.3	57.2	+182%	+182%	63.1	100.6	+59%

顧客資産純増¹と投信純増²、顧客資産残高



(1) 顧客資産純増＝資産流入額-資産流出額、地域金融機関分を除く (2) リテールチャネルのみ

決算のポイント

<第4四半期>

- 前四半期比、大幅増収増益～税前利益は2006年3月期第3四半期以来の高水準
- 総募集買付金額は前四半期比69%増加
- 株式市場の活況を背景に、エクイティ関連プロダクトが大幅に伸長
- 新業務系基幹システムに付随するコスト増(約50億円)は、好調な収益で吸収

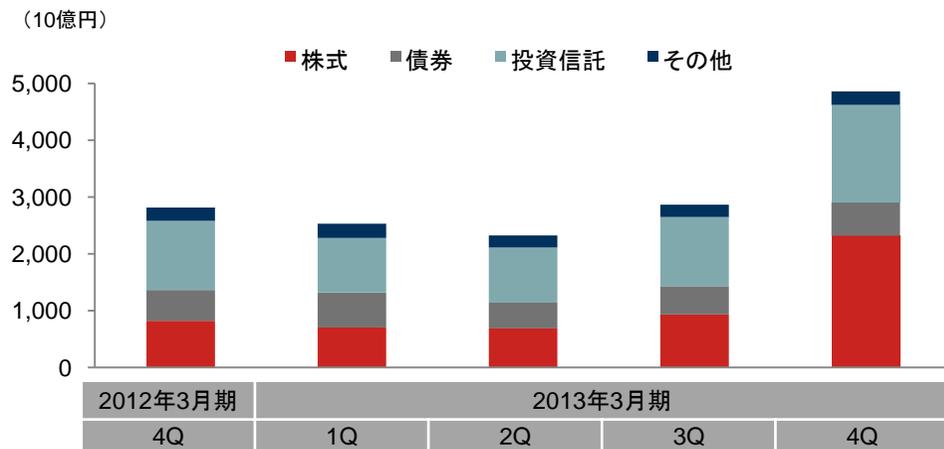
■ 顧客基盤

- 顧客資産残高 83.8兆円
- 残あり顧客口座数 502万口座
- 顧客資産純増 380億円

<通期>

- コンサルティング営業が定着、市況好転も追い風となり、下期業績は大幅に回復

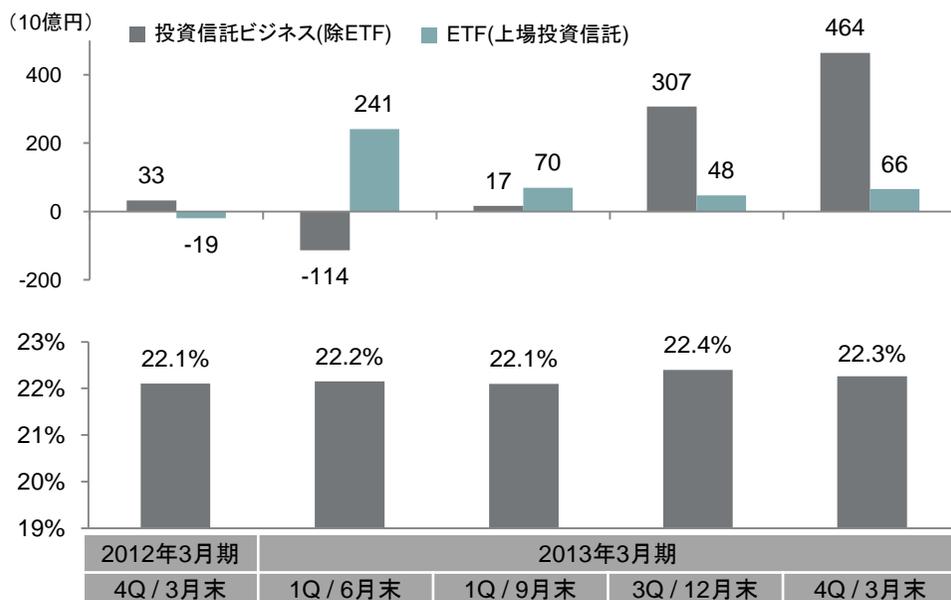
総募集買付額



収益合計(金融費用控除後)、税前利益

(10億円)	四半期							通期		
	2012年 3月期	2013年3月期				前四 半期比	前年 同期比	2012年 3月期	2013年 3月期	前年比
		4Q	1Q	2Q	3Q					
収益合計 (金融費用控除後)	15.7	16.4	15.4	18.8	18.3	-3%	+16%	65.8	68.9	+5%
金融費用以外の費用	11.6	11.0	10.9	11.5	14.4	+25%	+24%	45.3	47.8	+5%
税前利益	4.1	5.4	4.6	7.3	3.9	-46%	-5%	20.5	21.2	+3%

投資信託ビジネスの資金流出入¹、野村アセットマネジメントの公募投信シェア²



決算のポイント

<第4四半期>

- 成功報酬・配当収入等があった前四半期と同水準の収益を確保～運用資産残高は前四半期比10%増加
- 保有資産の評価見直しにより一時費用等を計上し、前四半期比で減益

投資信託ビジネス

- 投資家のリスク許容度が向上～日本株・高配当株投信を中心に資金流入

第4四半期資金流入額

- ✓ 野村高配当インフラ関連株プレミアム: 1,399億円
- ✓ 野村日本ブランド株投資: 1,284億円
- ✓ 野村日本高配当株プレミアム: 991億円

- ETF商品「NEXT FUNDS」のラインナップ充実

- 「野村日本株高配当70連動型ETF」を新規上場: インカム収入ニーズに対応
- ETF本数合計40本、3月末残高2.6兆円 (シェア51%、業界1位維持)²

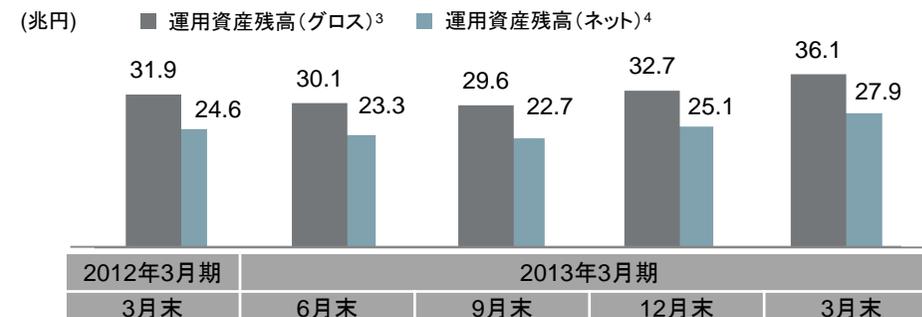
投資顧問ビジネス

- 運用資産残高は市況の改善もあり前四半期比10%増加～引き続き多様なプロダクトの運用マニフェストを獲得

<通期>

- 安定的に運用資産残高を拡大～前年比増収・増益を達成

運用資産残高



(1) 運用資産残高(ネット)に基づく資金流出入額 (2) 出所: 投資信託協会

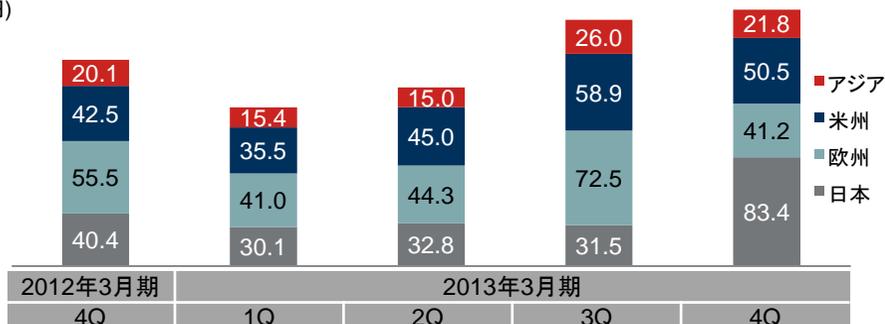
(3) 野村アセットマネジメント、野村ファンド・リサーチ・アンド・テクノロジー、ノムラ・コーポレート・リサーチ・アンド・アセット・マネジメント、野村プライベート・エクイティ・キャピタルの運用資産の単純合計 (4) 運用資産残高(グロス)から重複資産控除後

収益合計(金融費用控除後)、税前利益¹

(10億円)	四半期							通期		
	2012年 3月期 4Q	2013年3月期				前四 半期比	前年 同期比	2012年 3月期	2013年 3月期	前年比
		1Q	2Q	3Q	4Q					
収益合計 (金融費用控除後)	158.4	121.9	137.1	189.0	196.9	+4%	+24%	555.0	644.9	+16%
フィクスト・インカム	87.0	71.5	88.6	110.7	108.0	-2%	+24%	274.5	378.7	+38%
エクイティ	51.6	37.1	32.1	47.3	65.1	+38%	+26%	181.2	181.7	+0%
インベストメント・ バンキング(ネット)	21.2	15.1	15.8	17.7	23.4	+32%	+10%	75.4	72.0	-4%
その他	-1.4	-1.8	0.6	13.2	0.4	-97%	-	23.9	12.4	-48%
インベストメント バンキング	19.8	13.3	16.4	30.9	23.8	-23%	+20%	99.3	84.4	-15%
金融費用以外の費用	146.5	130.4	136.9	144.6	161.3	+12%	+10%	592.7	573.2	-3%
税前利益	11.9	-8.6	0.2	44.4	35.7	-20%	3.0x	-37.7	71.7	-
インベストメント・ バンキング(グロス)	40.5	32.2	33.3	33.4	44.1	+32%	+9%	141.7	143.0	+1%

地域別収益¹

(10億円)



(1) 2012年4月の組織改正に伴いホールセール部門およびその他を組み替えて表示

(2) インベストメント・バンキングその他を除く収益

決算のポイント

<第4四半期>

- 収益は2010年3月期第3四半期以来の高水準～日本の収益が大幅に増加
- コスト削減に伴う一時費用(約60億円)や円安の影響を受け、コストは増加

フィクスト・インカム

- 前四半期に次ぐ好調な収益水準～海外の減速を、好調な日本が吸収
 - － 日本: マクロ環境の変化により収益機会が増加
- 全地域で顧客フロー収益が伸長、前四半期比で24%増加
- 主要プロダクトの状況
 - － 金利: グローバルで引き続き高水準な収益を維持。欧州は市場のボラティリティ低下等を背景に、好調だった前四半期比で減収
 - － 証券化商品: 資産価格の上昇が一服し前四半期比減収となるも、収益は堅調に推移

エクイティ

- 顧客フロー収益
 - － 前四半期比37%増加～主要株式市場の売買代金が増加。特に日本は大幅に回復
- トレーディング収益
 - － 主要株式市場の指数上昇に伴い、トレーディングが好調
- デリバティブ・ビジネス: 第3四半期以降、拡大基調。日本・アジア共に大幅に拡大
- Instinetへの執行機能統合
 - － 主要顧客の大半は移管済み、今期コスト削減は目標を上回って進捗

インベストメント・バンキング

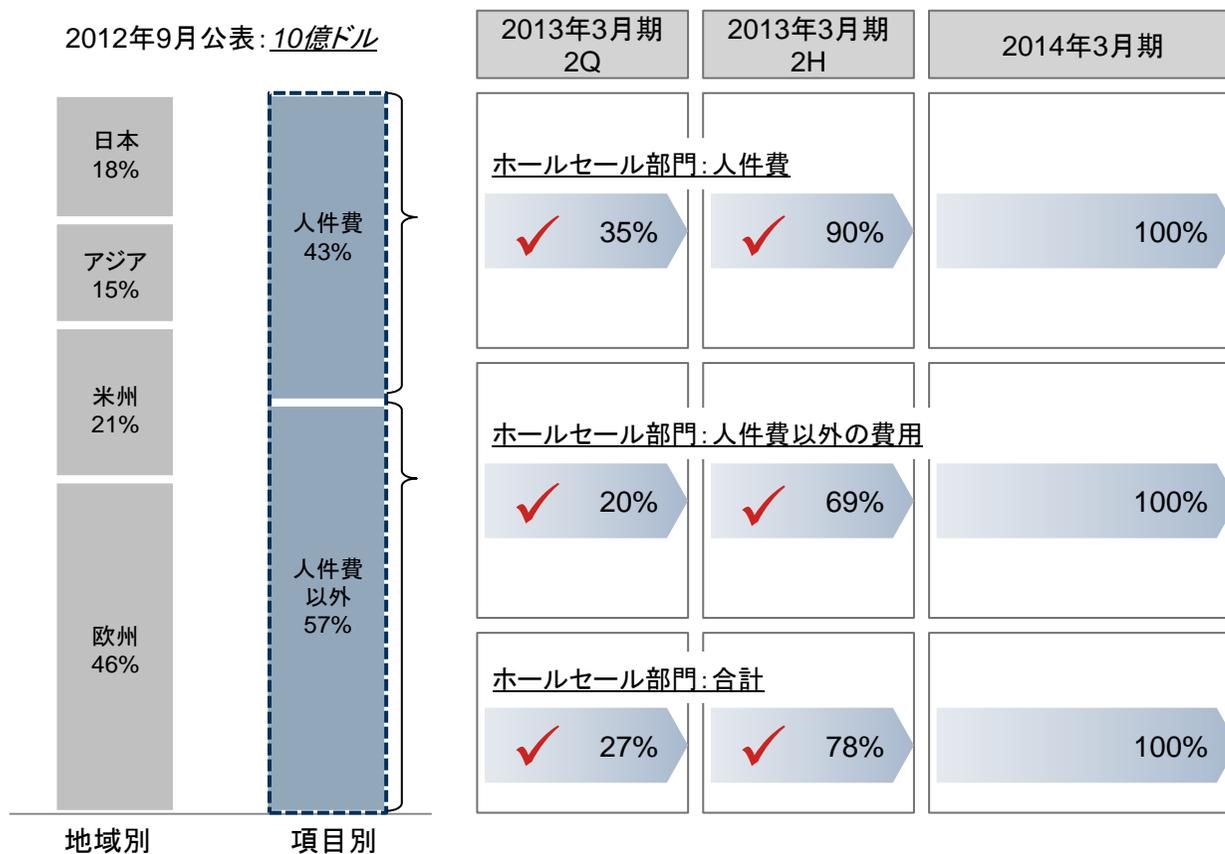
- プライベート・エクイティの譲渡益があった前四半期比で減収となるも、インベストメント・バンキング(ネット)は、堅調な国内ビジネスを背景に32%増収
- (グロス)収益は441億円～前四半期比・前年同期比ともに増収
 - － 日本: 過去8四半期で最高の収益水準
 - 特にREIT等のECM案件、大型DCM案件が収益を牽引
 - － 海外: 各地域で収益機会が減少する中、ビジネスのモメンタムを維持
 - 金融機関やフィナンシャル・スポンサーを中心に、M&Aやソリューションなど幅広いビジネスを獲得
 - 米州のレバレッジド・ファイナンスの収益が前四半期に引き続き伸長

<通期>

- フィクスト・インカムが収益を牽引～全プロダクト・海外各地域で前年比増収
- コスト削減等による影響を吸収し、エクイティ、インベストメント・バンキング²共に前年並みの収益を確保
- 収益性改善に向けた取組を継続～コストは3%低下

総額10億ドルのコスト削減スケジュール

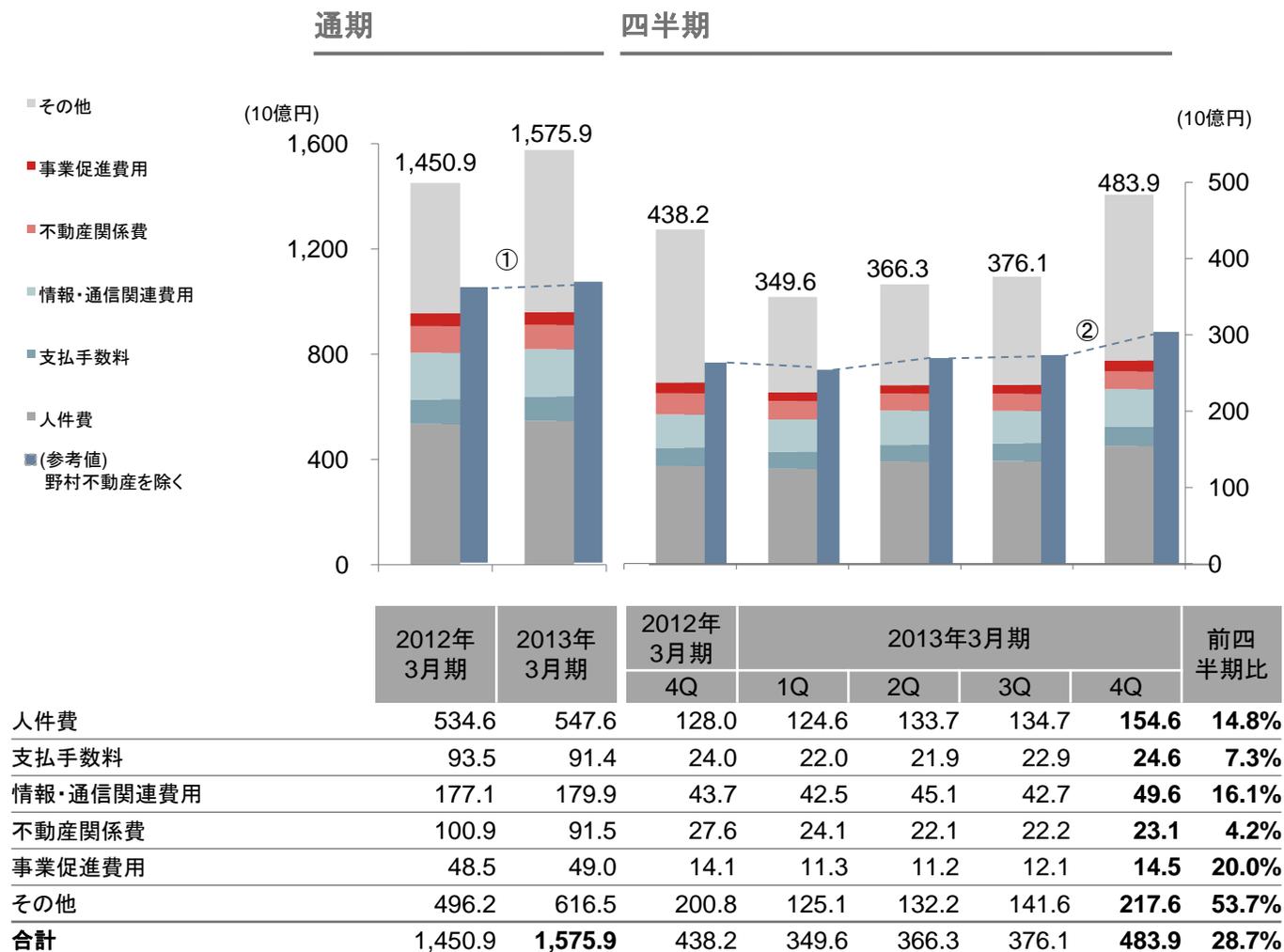
2013年3月末までの進捗



- 追加10億ドルのコスト削減は、3月末現在で78%進捗
 - 人件費削減は計画を上回るスピードで進捗(90%)

- 収益性改善に向けた取り組み
 - Instinetへの執行機能統合
 - ✓ 主要顧客の大半は移管済み、今期コスト削減は当初目標を上回って進捗
 - リサーチやデリバティブ・ビジネスの体制見直し
 - インベストメント・バンキングは注力する分野へ経営資源を再配分
 - コーポレートは、システム費用の抜本的見直し、ビジネスの効率性向上を推進

(1) 10億ドルの地域別、項目別内訳は、2012年9月6日のインベスターズ・デー公表値より修正



決算のポイント

<通期>

■ 金融費用以外の費用: 1兆5,759億円
(前年比: 9%増)

- 野村土地建物(2011年5月に子会社化)関連の連結期間の差異、野村不動産の収益拡大に伴う売上原価の増加など
- 野村不動産を除くベースでは、前年比、ほぼ横ばい...①

<第4四半期>

■ 金融費用以外の費用: 4,839億円
(前四半期比: 29%増)

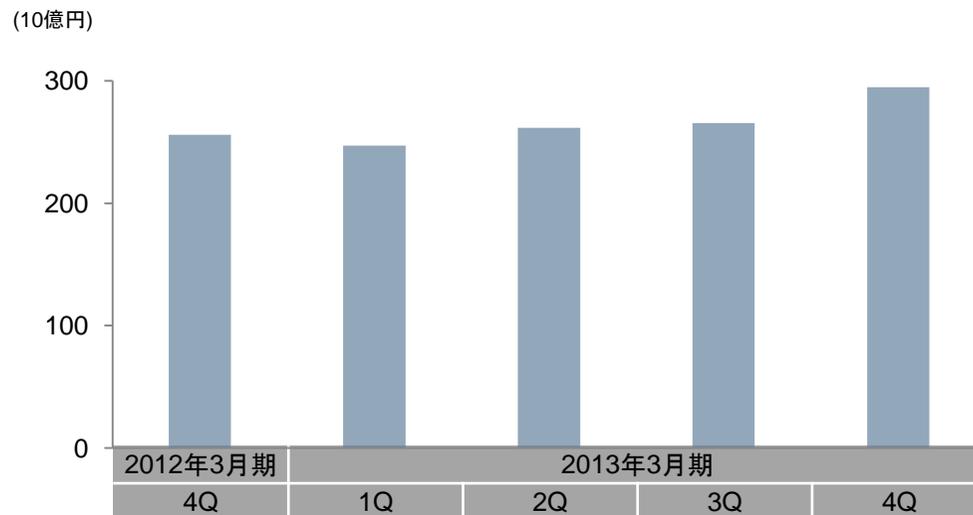
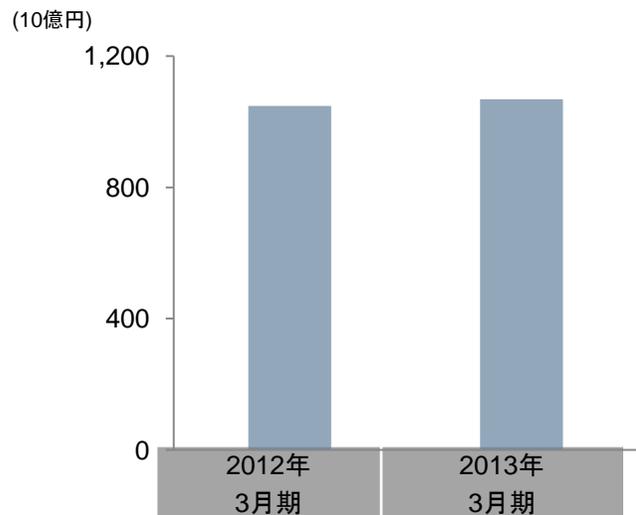
- 野村不動産の売上原価が増え、その他費用が前四半期比54%増加
- 野村不動産を除くベースでは、前四半期比で11%増加...②

通期

- 金融費用以外の費用は、前年比、ほぼ横ばい(2%増)
 - ✓ 円安進行による海外ビジネスのコスト増
 - ✓ 一時費用の増加
 - コスト削減に伴う一時費用(185億円)～前年は124億円を計上
 - 営業部門の業務系基幹システム刷新に伴う、システム除却損(約70億円)
 - のれんの減損(83億円)
- 上記要因を除く費用ベースは、前年比で減少

四半期

- 金融費用以外の費用は、前四半期比11%増加
 - ✓ 人件費
 - コスト削減に伴う一時費用は75億円～前四半期(39億円)より増加
 - 増収による賞与の積み増し、円安進行による海外ビジネスのコスト増など
 - ✓ 情報・通信関連費用
 - 営業部門の新業務系基幹システムに付随するコスト増(約50億円)
- 好調な収益でコスト増を吸収～税前利益は前四半期を大幅に上回る水準



バランスシート構造

■ 流動性の高い、健全なバランスシート構造

- 資産の82%は流動性の高いトレーディング関連資産であり、Mark-to-marketの対象。レポ等を通じて、トレーディング関連負債とマッチング(地域/通貨)
- その他の資産は、資本及び長期負債で調達しており、構造的に安定

■ 保守的なリスク・プロファイル

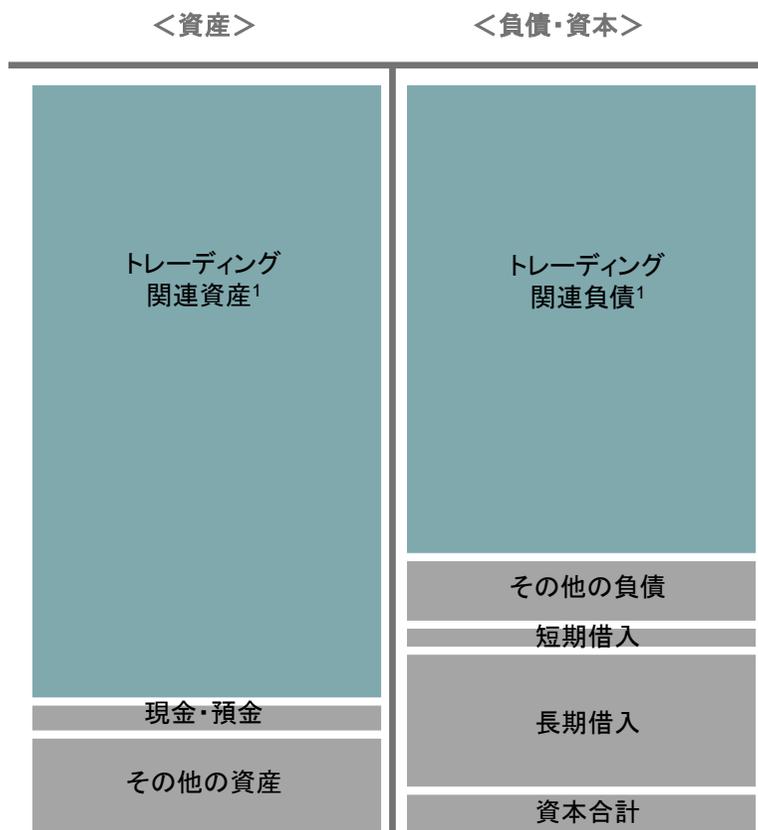
- GIIPS向けネット・カントリー・エクスポージャーは9.2億ドル(2012年12月末比20億ドル減少)
- レベル3資産²(デリバティブ負債相殺後)はTier1資本の25%

流動性ポートフォリオ³

■ 潤沢な手元流動性

- 5.9兆円、総資産の16%
- 新たな無担保資金調達に頼らず、一定期間、事業継続可能な高い流動性を常時保持

貸借対照表
(2013年3月末現在)



調達構造

■ 保守的な調達構造

- 無担保調達資金³の約8割が長期負債
- 償還年限および調達先は幅広く分散

資本基盤

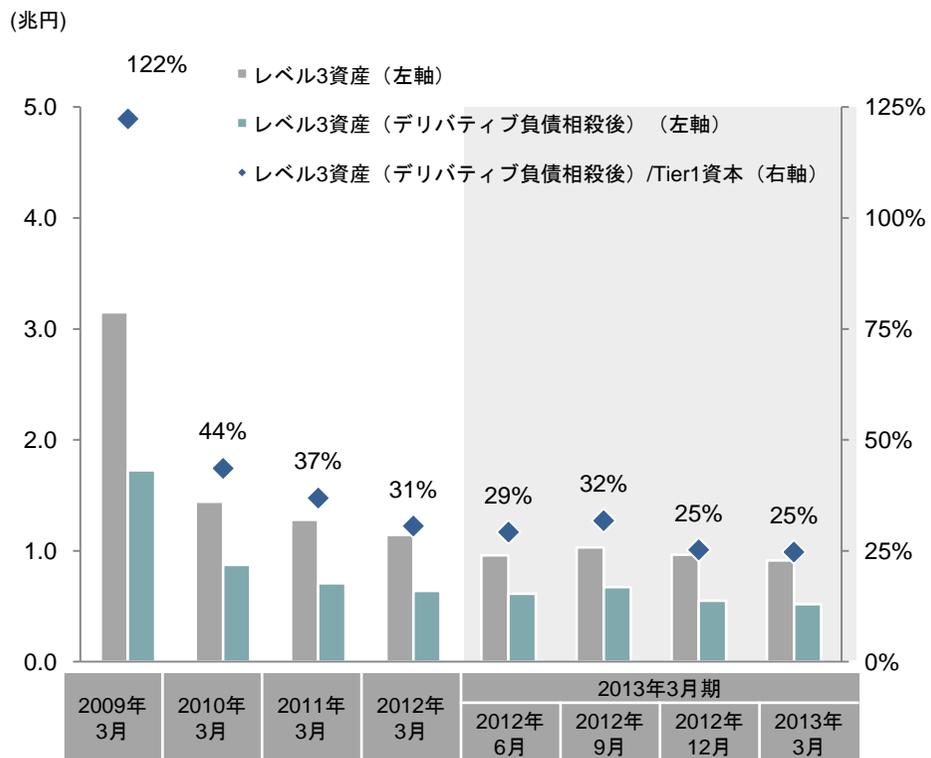
■ 強固な資本基盤

- バーゼル3ベース⁴
Tier1比率: 11.7%
- Tier1コモン比率⁵: 11.7%
- グロス・レバレッジ: 16.5倍
調整後レバレッジ⁶: 10.4倍

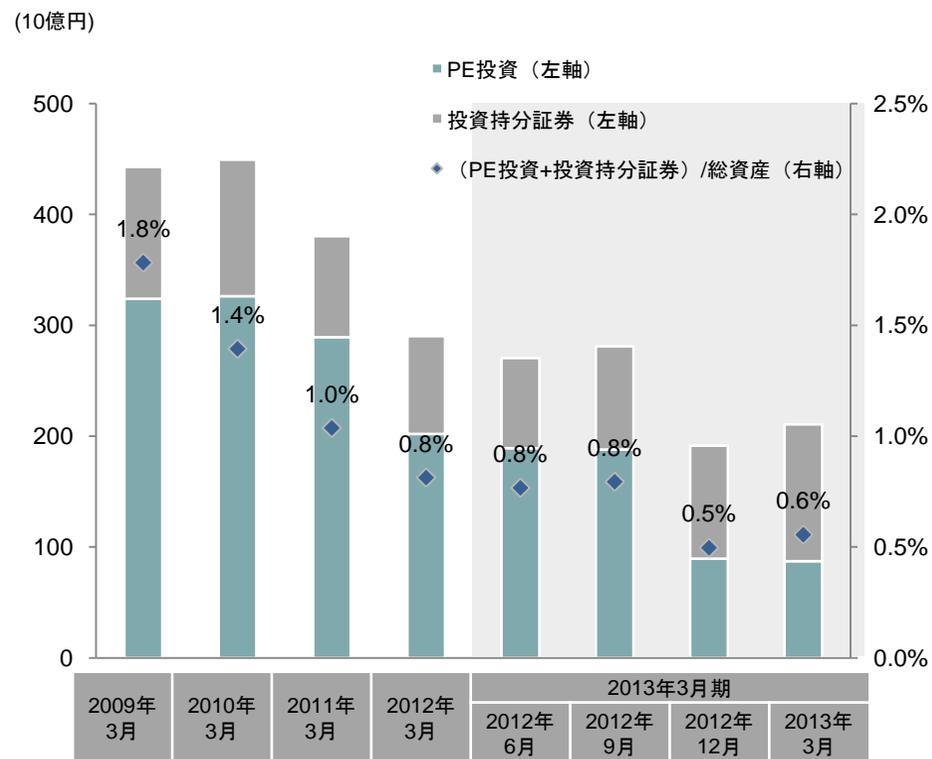
(1) トレーディング関連資産:リバース・レポ、証券、デリバティブ等、トレーディング関連負債:レポ、負債証券、デリバティブ等 (2) 暫定数値 (3) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる。流動性ポートフォリオの中の現金・預金は取引所預託金およびその他の顧客分別金を含まない (4) 信用リスク・アセットの算出に用いるエクスポージャーの額は、期待エクスポージャー方式(IMM)を用いて算出 (5) Tier 1コモン比率: Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したものの (6) 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率

- 引続き、レベル3資産やプライベートエクイティおよび投資持分証券については低水準を維持

レベル3資産¹



プライベートエクイティ/投資持分証券



バランス・シート関連指標と自己資本比率

(10億円)

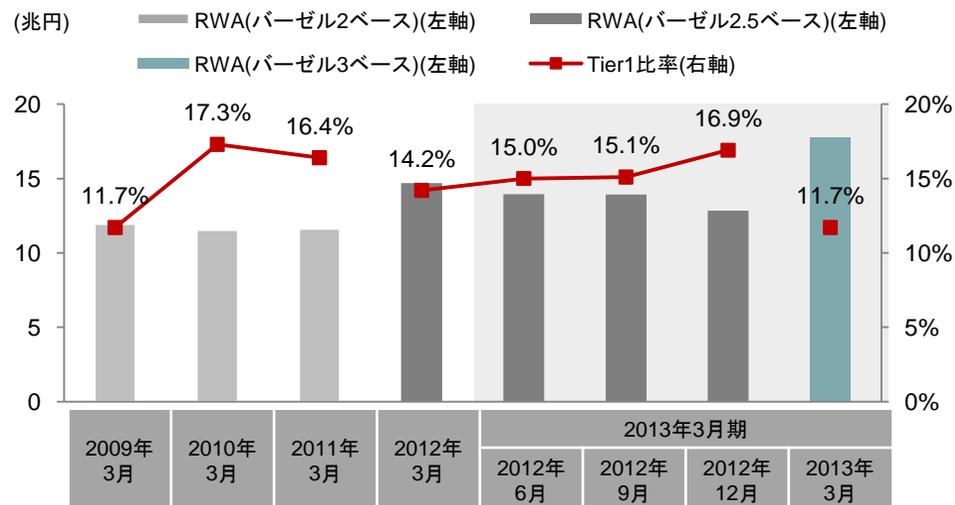
	2012年12月末 ¹	2013年3月末 ¹
	バーゼル2.5ベース	バーゼル3ベース
総資産	38,562	37,942
Tier 1	2,174	2,094
Tier 2	321	360
Tier 3	251	-
自己資本合計	2,492	2,454
リスク調整後資産(RWA)	12,834	17,753
Tier 1 比率	16.9%	11.7%
Tier 1 コモン比率 ²	14.9%	11.7%
連結自己資本規制比率	19.4%	13.8%

- 野村不動産の非連結化等に伴い、総資産は前四半期比減少
- 野村不動産の非連結化やトレーディングポジション減少の一方で、バーゼル3適用により、Tier1比率およびTier1コモン比率は11.7%に低下
- 2013年3月末のバランスシートにバーゼル3の2019年基準を適用した場合の、Tier1比率およびTier1コモン比率は共に約10%

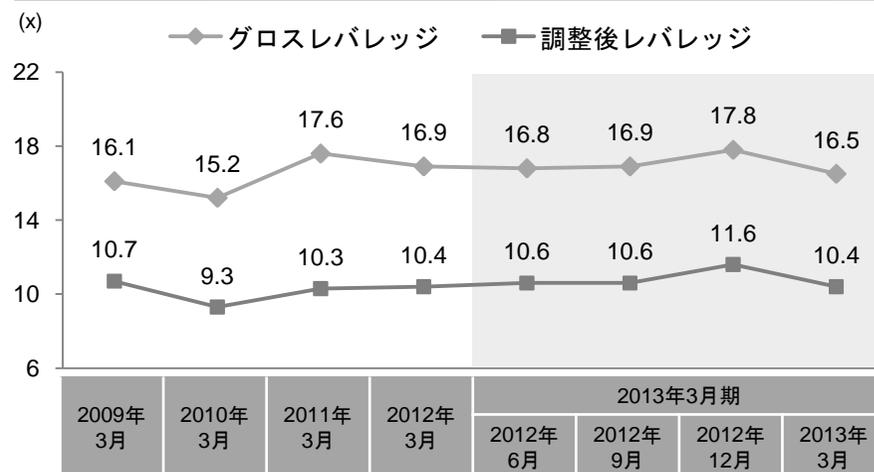
(1) 信用リスク・アセットの算出に用いるエクスポージャーの額は、期待エクスポージャー方式(IMM)を用いて算出

(2) Tier 1コモン比率: Tier 1資本から非支配持分を控除し、リスク調整後資産で除したもの (3) 調整後レバレッジは、総資産の額から売戻条件付買入有価証券および借入有価証券担保金の額を控除した額を、当社株主資本の額で除して得られる比率

リスク調整後資産(RWA)、Tier 1比率



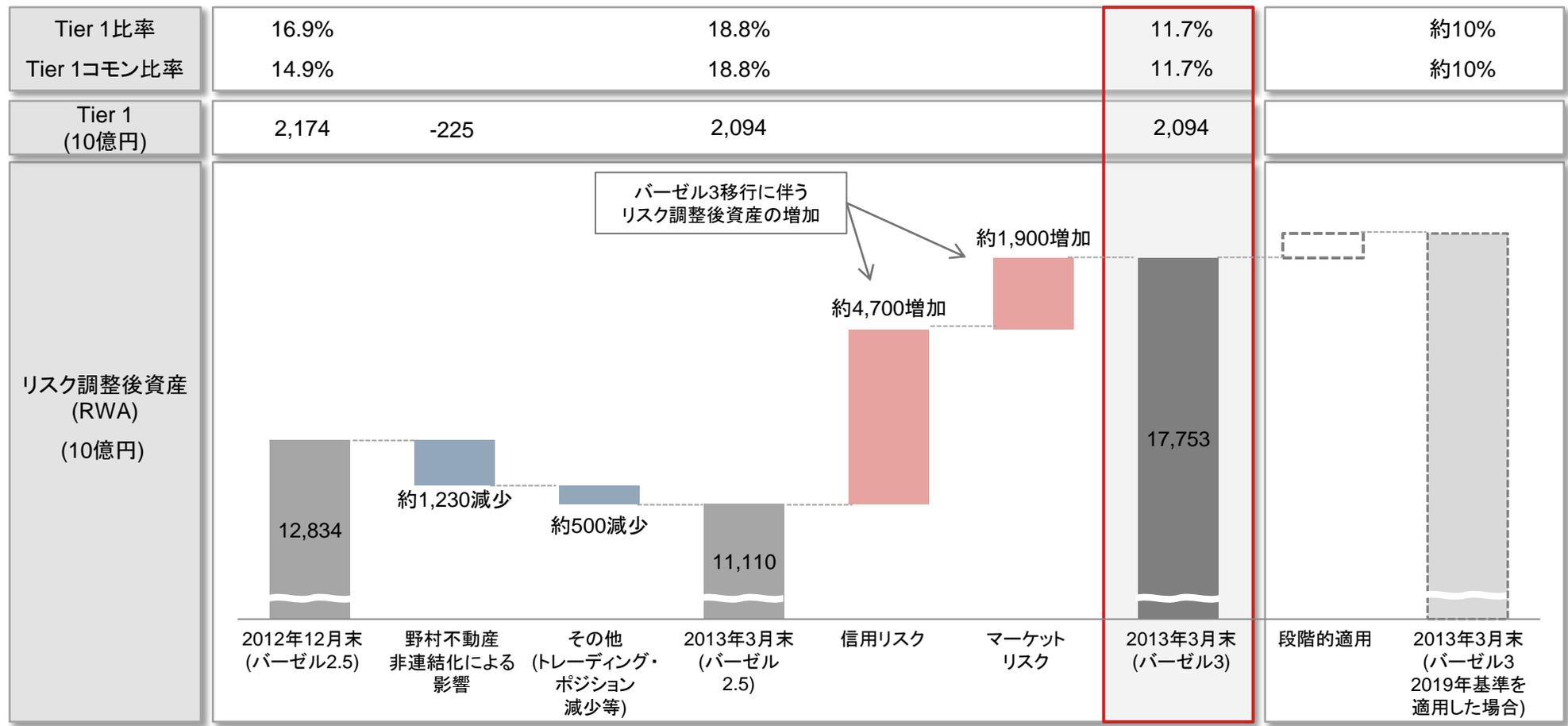
グロス・レバレッジ、調整後レバレッジ³



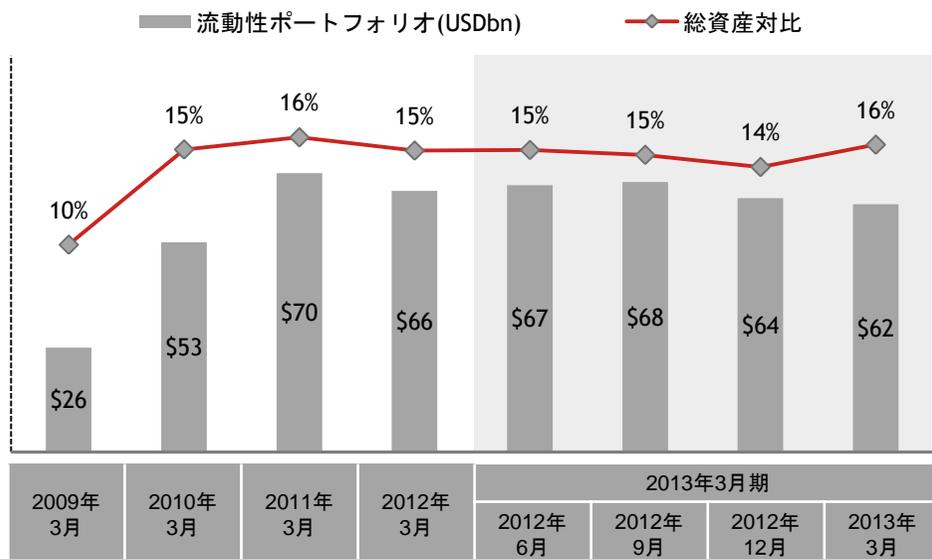
自己資本(Tier 1)、リスク調整後資産の変動

2012年12月末 vs. 2013年3月末(速報値)

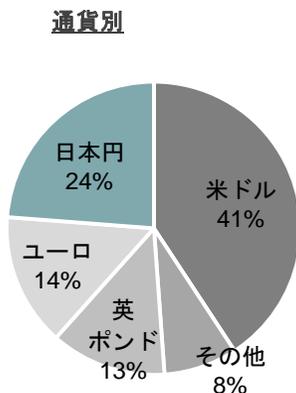
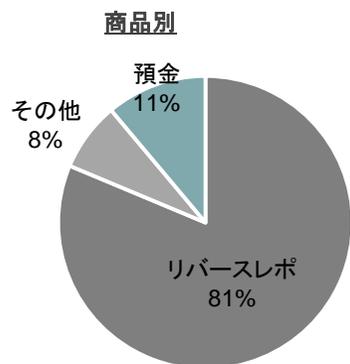
<ご参考>
2013年3月末のバランスシートに
バーゼル3の2019年基準を適用
した場合



流動性ポートフォリオ¹: 5.9兆円(\$62bn)、総資産の16%相当



構成比 (2013年3月末)



流動性管理

■ 流動性ストレステスト ~ リスク許容範囲を定量的に規定

- 以下のようなマーケット全体に対するストレスや自社の信用にストレスが掛かる状況においても、一定期間事業を維持できるような流動性を常時保持することを目的として、日次でストレステストを実施

■ 主なシナリオ・前提

- 追加の無担保調達を行うことができない状況
- 既存のレポ調達時の担保掛目の拡大
- 決済銀行からの担保・預託金追加要求
- コミットメント提供先のドローダウン
- 損失に伴う資金の喪失
- 信用格付け下げ時の担保等の想定流出額 等

■ 流動性ポートフォリオの構成

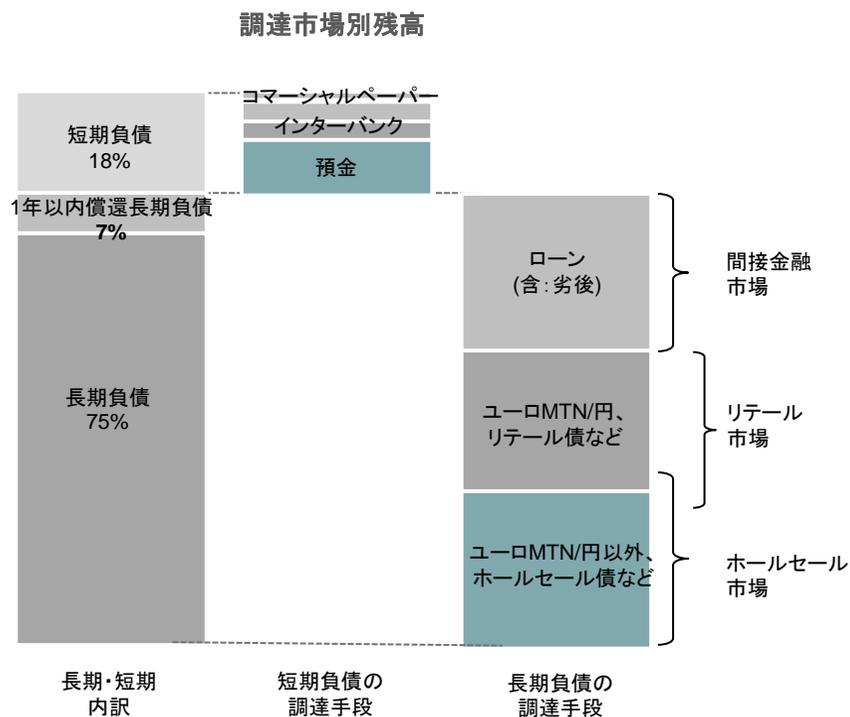
- 流動性ポートフォリオについては、日・米・独・英の国債を中心としたリバースレポ、現預金等で運用
- 欧州周辺国(GIIPS)関連資産での運用はなし

(1) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる。流動性ポートフォリオの中の現金・預金は取引所預託金およびその他の顧客分別金を含まない

- 調達市場の変化に対する備えとして、長期負債を中心とした調達構造の維持、調達先の分散化に注力
- 長期負債の償還時期は分散されており、かつ平均償還年限³は5年超と安定的
- 引続き、調達先、償還年限の分散化を図る

無担保調達資金¹: 約8割が長期負債、調達先は分散

(2013年3月末)

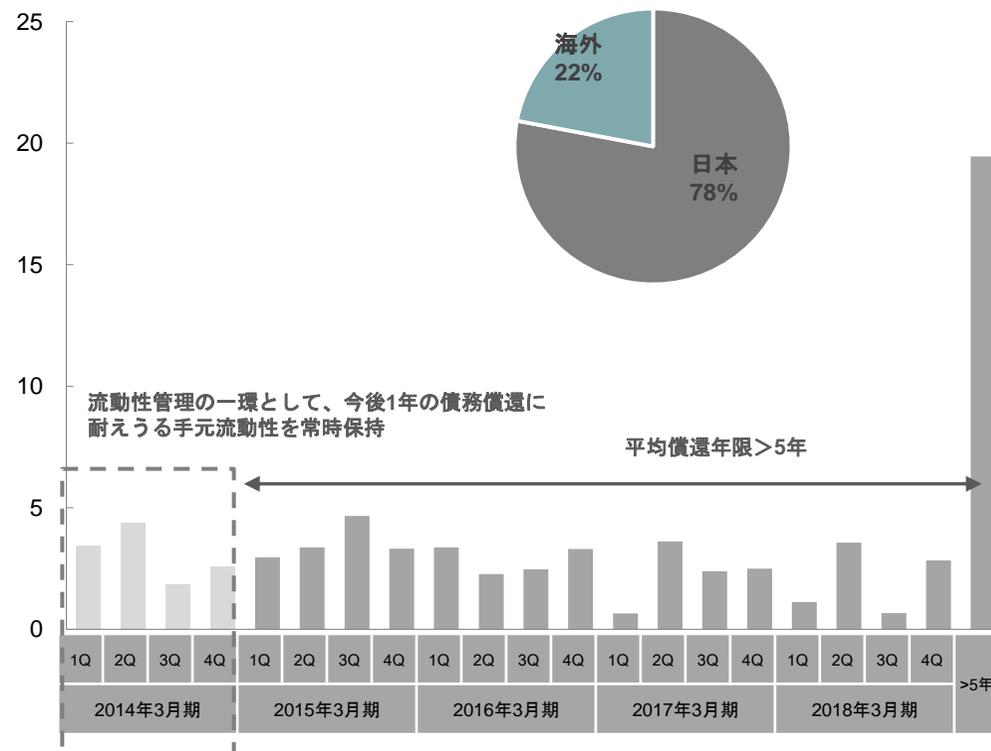


長期負債償還年限²

(10億ドル)

長期負債の地域構成

(2013年3月末)



(1) 流動性管理の観点に基づくもので、財務諸表の定義と異なる
 (2) 2013年3月末時点におけるストレスシナリオでの早期償還確率を織り込む (3) 1年以内償還長期負債を除く

参考資料

バランス・シート関連データ

NOMURA

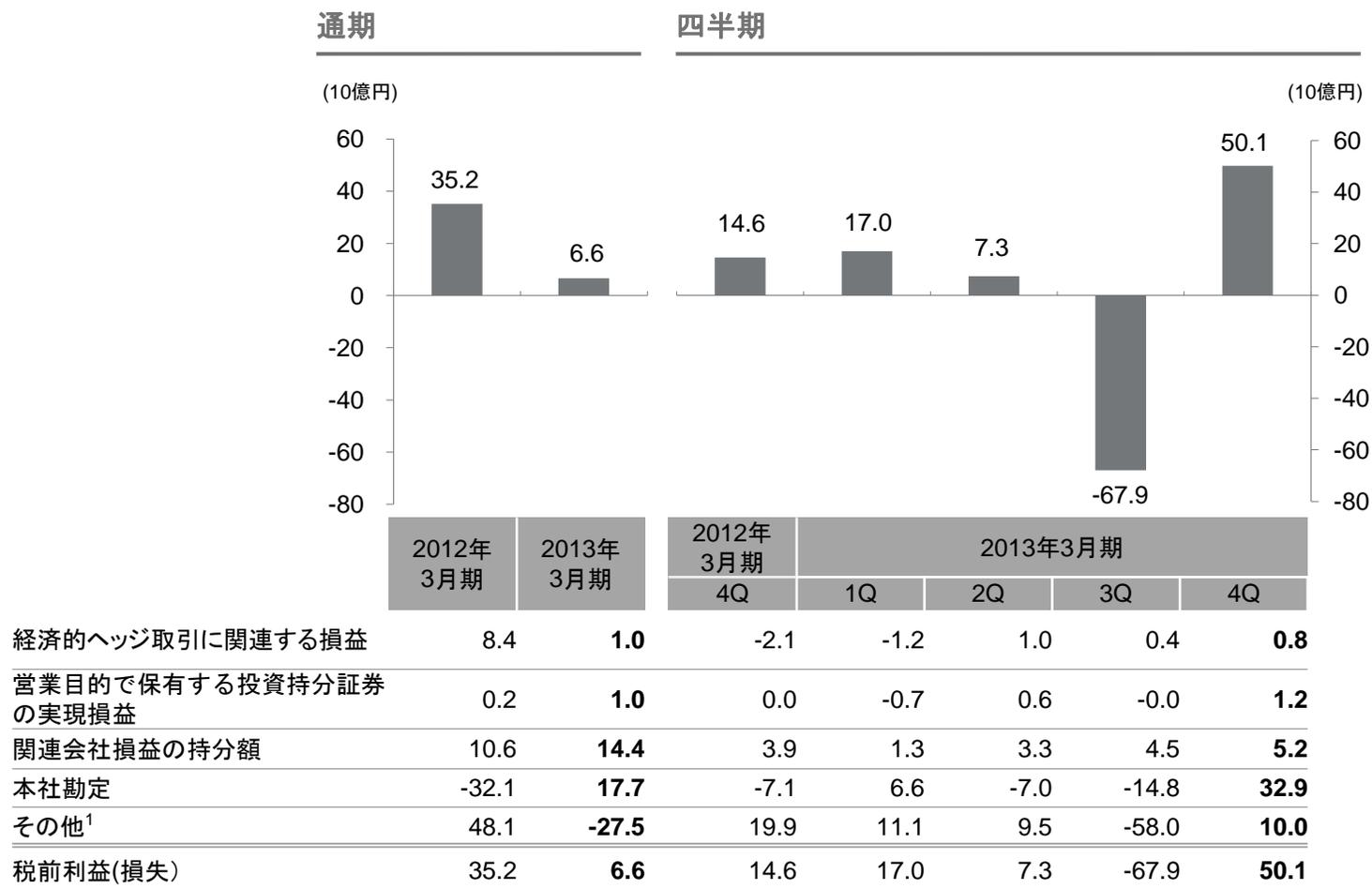
	(単位:百万円)		
	前期 (2012.3.31)	当期 (2013.3.31)	前期比増減
資産			
現金・預金:			
現金および現金同等物	1,070,520	805,087	△ 265,433
定期預金	653,462	577,921	△ 75,541
取引所預託金およびその他の顧客分別金	229,695	269,744	40,049
計	1,953,677	1,652,752	△ 300,925
貸付金および受取債権:			
貸付金	1,293,372	1,575,494	282,122
顧客に対する受取債権	58,310	63,792	5,482
顧客以外に対する受取債権	864,629	992,847	128,218
貸倒引当金	△ 4,888	△ 2,258	2,630
計	2,211,423	2,629,875	418,452
担保付契約:			
売戻条件付買入有価証券	7,662,748	8,295,372	632,624
借入有価証券担保金	6,079,898	5,819,885	△ 260,013
計	13,742,646	14,115,257	372,611
トレーディング資産およびプライベート・エクイティ投資:			
トレーディング資産※	13,921,639	17,037,191	3,115,552
プライベート・エクイティ投資	201,955	87,158	△ 114,797
計	14,123,594	17,124,349	3,000,755
その他の資産:			
建物、土地、器具備品および設備 (2012年 3月31日現在 355,804 百万円 2013年 3月31日現在 355,831 百万円の減価償却累計額控除後)	1,045,950	428,241	△ 617,709
トレーディング目的以外の負債証券※	862,758	920,611	57,853
投資持分証券※	88,187	123,490	35,303
関連会社に対する投資および貸付金※	193,954	345,705	151,751
その他	1,475,123	602,159	△ 872,964
計	3,665,972	2,420,206	△ 1,245,766
資産合計	35,697,312	37,942,439	2,245,127

※担保差入有価証券を含む

	(単位:百万円)		
	前期 (2012.3.31)	当期 (2013.3.31)	前期比増減
負債および資本			
短期借入	1,185,613	738,445	△ 447,168
支払債務および受入預金:			
顧客に対する支払債務	764,857	476,705	△ 288,152
顧客以外に対する支払債務	767,860	864,962	97,102
受入銀行預金	904,653	1,072,134	167,481
計	2,437,370	2,413,801	△ 23,569
担保付調達:			
買戻条件付売却有価証券	9,928,293	12,444,317	2,516,024
貸付有価証券担保金	1,700,029	2,158,559	458,530
その他の担保付借入	890,952	806,507	△ 84,445
計	12,519,274	15,409,383	2,890,109
トレーディング負債	7,495,177	8,491,296	996,119
その他の負債	1,165,901	978,163	△ 187,738
長期借入	8,504,840	7,592,368	△ 912,472
負債合計	33,308,175	35,623,456	2,315,281
資本			
当社株主資本:			
資本金			
授權株式数 - 6,000,000,000株			
発行済株式数 - 2012年 3月31日現在 3,822,562,601株			
2013年 3月31日現在 3,822,562,601株			
発行済株式数 (自己株式控除後) - 2012年 3月31日現在 3,663,483,895株			
2013年 3月31日現在 3,710,960,252株			
594,493	594,493	-	
資本剰余金	698,771	691,264	△ 7,507
利益剰余金	1,058,945	1,136,523	77,578
累積的其他の包括利益	△ 145,149	△ 57,395	87,754
計	2,207,060	2,364,885	157,825
自己株式(取得価額)			
自己株式数- 2012年 3月31日現在 159,078,706株			
2013年 3月31日現在 111,602,349株			
△ 99,819	△ 70,514	29,305	
当社株主資本合計	2,107,241	2,294,371	187,130
非支配持分	281,896	24,612	△ 257,284
資本合計	2,389,137	2,318,983	△ 70,154
負債および資本合計	35,697,312	37,942,439	2,245,127

(10億円)	通期		四半期					
	2012年 3月期	2013年 3月期	2012年 3月期	2013年3月期				
			4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
収益								
委託・投信募集手数料	347.1	359.1	90.4	77.4	72.3	83.7	125.7	
投資銀行業務手数料	59.6	62.4	14.8	10.4	17.1	13.0	21.8	
アセットマネジメント業務手数料	144.3	141.0	35.1	33.8	33.4	35.0	38.8	
トレーディング損益	272.6	368.0	98.9	84.4	88.9	88.2	106.5	
プライベート・エクイティ投資関連損益	25.1	8.1	-1.2	-5.4	0.3	11.6	1.5	
金融収益	435.9	394.0	92.4	103.5	92.8	99.7	98.0	
投資持分証券関連損益	4.0	38.7	9.9	-7.1	13.0	8.9	23.9	
その他	563.2	708.8	225.0	142.6	143.4	118.8	304.0	
収益合計	1,851.8	2,079.9	565.4	439.6	461.2	459.0	720.1	
金融費用	315.9	266.3	66.4	70.3	59.5	69.9	66.5	
収益合計(金融費用控除後)	1,535.9	1,813.6	499.0	369.3	401.7	389.1	653.6	
金融費用以外の費用	1,450.9	1,575.9	438.2	349.6	366.3	376.1	483.9	
税引前当期純利益(損失)	85.0	237.7	60.8	19.7	35.4	13.0	169.7	
当社株主に帰属する当期純利益(損失)	11.6	107.2	22.1	1.9	2.8	20.1	82.4	

税前利益(損失)



(1) 2012年4月の組織改正に伴いホールセール部門およびその他を組み替えて表示

■ VaRの前提

- 信頼水準 : 99%
- 保有期間 : 1日
- 商品の価格変動等を考慮

■ VaRの実績(10億円)

- 期間 : 2012.4.1~2013.3.29
- 最大 : 8.7
- 最小 : 4.3
- 平均 : 6.1

(10億円)	2012年 3月末	2012年 6月末	2012年 9月末	2012年 12月末	2013年 3月末
株式関連	1.4	1.2	1.0	2.4	1.3
金利関連	6.5	5.7	6.6	6.4	5.0
為替関連	2.5	1.7	1.9	2.1	1.9
小計	10.4	8.6	9.5	11.0	8.1
分散効果	-3.2	-3.2	-2.3	-3.8	-3.0
連結VaR	7.2	5.4	7.1	7.2	5.1

欧州周辺国(GIIPS)のカントリー・エクスポージャー(2013年3月末現在、速報値)

(百万ドル)

	インベントリー (ネット) ¹	カウンターパーティ(ネット)		合計	ネット・エク スポージャー合計	12月末からの 変動
	合計	うち、カウンター パーティ ²	うち、引当/ ヘッジ等			
ギリシャ	26	95	-2	93	120	-10
アイルランド	230	12	0	12	242	-142
イタリア	18	606	-681	-75	-57	-1,812
ポルトガル	-29	2	-38	-36	-65	-48
スペイン	476	232	-29	203	678	-8
欧州周辺国 - 合計	720	947	-750	197	918	-2,019
ソブリン	548	414	-701	-287	261	-1,817
ソブリン以外	173	533	-49	484	657	-202

- 3月末現在、欧州周辺国へのネット・カントリー・エクスポージャーは9.2億ドル
 - 12月末(29.4億ドル)から20.2億ドル(69%)減少
 - 主にイタリアのソブリン・エクスポージャーが大幅に減少
- インベントリーは全てトレーディング資産として保有しており、Mark-to-marketの対象

(1) ロング・ショートをネットした商品在庫

(2) レボ取引、株券貸借取引、OTCデリバティブ等(受入担保価値控除後)

	2012年3月末	2012年6月末	2012年9月末	2012年12月末	2013年3月末
日本(FA除く) ¹	19,598	20,197	20,039	19,877	14,123
FA社員	2,011	2,014	1,981	1,951	1,907
欧州	4,014	3,975	3,940	3,747	3,618
米州	2,420	2,423	2,425	2,316	2,271
アジア・オセアニア ²	6,352	6,454	6,430	6,207	6,037
合計	34,395	35,063	34,815	34,098	27,956

(1) プライベート・エクイティ投資先企業等の人員数は含まない

(2) インド(ボワイ・オフィス)を含む

2013年3月31日現在	Standard & Poor's	Moody's	格付投資情報センター(R&I)	日本格付研究所(JCR)
野村ホールディングス株式会社				
長期格付	BBB+	Baa3	A+	AA-
短期格付	A-2	-	a-1	-
見通し	安定的	安定的	ネガティブ	安定的
野村證券株式会社				
長期格付	A-	Baa2	A+	AA-
短期格付	A-2	P-2	a-1	-
見通し	安定的	安定的	ネガティブ	安定的
野村信託銀行株式会社				
長期格付	A-	-	-	AA-
短期格付	A-2	-	a-1	-
見通し	安定的	-	-	安定的
ノムラ・バンク・インターナショナル PLC				
長期格付	A-	-	-	AA-
短期格付	A-2	-	-	-
見通し	安定的	-	-	安定的